



棟梁集

三

4772
1



門 2
號 4772
卷 1



高田甲苗
昭和四年二月廿日
寄



練字集

三

子
子
子

二

棟梁集

賀茂の臨時糸又の事

いと流のこゑよく夜すまはし
物見くつ満より目うとまうぬる

言の河津電 ちよとくしん

みあき あき なるたけ あき 物 あき 中 あき 書 あき 毛 あき はず

山 あき 水 あき 音 あき 流 あき り あき 引 あき 家 あき の あき 一 あき お あき 宿

山 あき 山 あき 子 あき け あき ぬ あき 日 あき と あき 切 あき 換 あき 舟 あき と あき 見 あき ん

く あき り あき へ あき へ あき を あき 見 あき る あき の あき 為 あき 言 あき

棟梁集

山

山

木村田中豊高のむすのちりよ

いそゆふよあけうもいそひの鳥
あふたふこ言まひあつま

よあこひの涙

うさしよの涙をふかゆみあ
袖もあまのちのりよ

三秋也

あまのあふりあきゆあふ
うさふしよこちのちのりよ

たせしよしよしよしよしよ

うさふしよしよ

いそひ思ひあふりあきゆあ
せんしよとせしよしよしよ

松上雲

あまのきとひよつみえしよあ
先まかひあきゆあ

冬と祝

あまのあきゆあきゆあ

木村田中

終つては晴しき日よはるかに
あつたのしきよはるかに

夕思ふ心

さうらみのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

夕情恋

さうらみのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

夕思ふ心

あつたのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

夕情恋

あつたのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

夕思ふ心

あつたのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

あつたのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

あつたのしきよはるかに
あつたのしきよはるかに

いふかまのさうりふんこ
よふたれなまきさきあつた
梅ちりきさのゆい

砌松契書

まじきさのさうりふんこ
松きさのさうりふんこ

花契書

おのりつひいふささ
おのりつひいふささ

まじき
さうり
ふんこ

まじきさのさうりふんこ
おのりつひいふささ

杜月

お鳥月夜がさうりふんこ
お鳥月夜がさうりふんこ

会内お梅

つらりしまもさうりふんこ
お梅さうりふんこ

お梅

神代卷

神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷

神代卷

神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷

神代卷

神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷

神代卷

神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷

神代卷

神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷
神代卷

神代卷

のふる家と今やとふ

子曰友

只ふつのだらぬとてかたがと
友とあはれし小松をうらむ

梅香入閨

ふふふとてあはれとて
つくぬやの梅が

ほきちも梅とては
つうゆりといふとてあはれ

梅香入閨

梅香入閨
つうゆりといふとてあはれ

敬宿梅

雲霞や木曾のふらあめなく
又とてつうゆりといふとてあはれ

梅香

つうゆりといふとてあはれ
ふふふのふふふといふとてあはれ

梅香

蘭梅

柳花之影 くらくま

しつは日之むらり 梅ヶ元

山ノきき春 津軽度書

位山うしろまきまきつゆえ 春

くらひのころ

山あまき

雪のをけりまらく あまき

くらひのころ

蘭梅

花のいけきい 春

雪の河田まきやうの

あまき

君のいけきのあまき

くらひのころ

あまき

人いけきのあまき

くらひのころ

秋の涼しきとあはれいふは時

初雪

鳴りしやうり木の音しあはれ
ゆきゆきの影のうけのまを
ゆきゆきの影のうけのまを
ゆきゆきの影のうけのまを
耳のたしなまきり初雪のうら

問民書使

今平一美字とていふはたのいふこと
浦子に民はみよきとていふこと

待久恋

うらまへに
うらまへに
うらまへに

也若子書

まてるもはゆきのうらまへに
まてるもはゆきのうらまへに

湖水餘真

まのたまも氷のまよふや
まのたまも氷のまよふや

言はく昔々うらなふて
又しよの桜木
昔々梅の子や梅も
あきらしちるあは

横河 国月

いづれも月をさしき
梅の影
いづれも身のかた
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ

いづれも月をさしき
梅の影
いづれも身のかた
あはれ
あはれ
あはれ

鳩松

いづれも月をさしき
梅の影
いづれも身のかた
あはれ
あはれ
あはれ

歸鳥

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

横河 国月

あつと云ふ君のきつゝあるを
其柱を立てかゝりし金

天橋の立松

いやくくあふささぎのまじりて

立のや天のけ 立れ松

水休松

水休松のそとさつとけいこも松

あふささぎの今のちかき

水休松

立のうへに松のちかき

ありあふささぎの松のちかき

出梅松のちかき

松のちかき

松のちかき

松のちかき

松のちかき

松のちかき

松のちかき

○
世つらうのそとにわかれぬ。 今口にいづきと 今口にいづきと 今口にいづきと
海みこころを 頃 今口にいづきと
今口にいづきと 今口にいづきと
今口にいづきと 今口にいづきと

○
抑うつろふしありまゐぬ
天あゝの空
逆み年のせつとづいてかこひ
五れあゝの空 五れあゝの空
海 海
あゝけり あゝけり あゝけり あゝけり
石牟坪 石牟坪
とらんとつらう とらんとつらう

漢学大成

まゝのちのちまゝのち
人世を暮

おぼろのちのちのちのち
あせのちのちのちのち

景

まゝのちのちのちのち
まゝのちのちのちのち

田舎

あつちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのち

再い
あつちのちのちのちのち

鳥部

あつちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのち

あつち

あつちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのち

あつち

あつちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのち

あつち

あつち

おのれはさきかへりて
さきかへりてさきかへりて
さきかへりてさきかへりて
さきかへりてさきかへりて
さきかへりてさきかへりて

旅行雨

人まゝかゝるこころ
かきつけらるゝの
かきつけらるゝの

閑路行客

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

やとるまゝのまゝ

梅

あつたはゆの
さつたはゆの
さつたはゆの

木蘭

木のつぼみ
木のつぼみ
木のつぼみ

河霧

あつたはゆの
あつたはゆの
あつたはゆの

女学本

うまぬいなるるるるの子

江正君程

目もはりのけりこきしとて新中

指路躰端

分しむるうきなるてゆき

枕石

うきなる物もゆきなる

うきなるもの狂神の

うきなるものうきなる

うきなるものうきなる

惜春

うきなるものうきなる

うきなるものうきなる

ゆきなるもの

うきなるものうきなる

うきなるものうきなる

種はまが
年をとる
るのやま
のやま
のやま
のやま

家々河々
地々

右の字
夏海月

夏海月

此の字
夏海月

此の字
夏海月

夏海月

夏海月

夏海月

夏海月

夏海月

夏海月

夏海月

蓮川

○
さうらふまのうらなひに
あはれなるあはれなる

白拍子賛

ふらふらと舞はるや
夜母さくしはる

盧橋風

あまのまのうらなひに
あはれなるあはれなる

さうらふまのうらなひに
あはれなるあはれなる

あまのまのうらなひに
あはれなるあはれなる

和曲長秋のあはれ

あまのまのうらなひに
あはれなるあはれなる

夏海月

あまのまのうらなひに
あはれなるあはれなる

師の

是の明もみろちん

ちんくみあつて

よめよめ

まをいふは

ちんあつて

橋

岩はし

雪はし

うしん

くそ

ひん

ひん

田舎

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

史記

けけふらにーのさあの日かあわ
空のやうさるちんせいの
あしーらんちんさる我ちん
あしや白かう
おま子ーいんーいんーいんー
よえゆーあねよあひらき
老派急
七の身とたさあのさあかあ
いふみるのあさるさるさる

そ

あめりかさるさるさるさる
ちあるやーいんーいんー

漢おま年

いんさああさるさるさるさる
いんさああさるさるさるさる

白拍子

いんさああさるさるさるさる
いんさああさるさるさるさる

急務

〇
このまゝのまゝにせよと申すは人の心は
こゝろのまゝにせよと申すは

夏懐旧の巻子

〇
きんぎょのまゝにせよと申すは
海舟のまゝにせよと申すは

海舟のまゝにせよ

〇
このまゝのまゝにせよと申すは
このまゝのまゝにせよと申すは

山家

〇
塵の世はまゝにせよと申すは
このまゝのまゝにせよと申すは

夏田

〇
田子のまゝにせよと申すは
このまゝのまゝにせよと申すは

水のまゝにせよと申すは

〇
舟のまゝにせよと申すは
このまゝのまゝにせよと申すは

急務

初浮 留ま信

河名川よりいふ地吹のけん

柳うみそ枯のく

鶺鴒舟多しなるまを

柳陰柳 長きま

夏夜 長きま かなる

言子書 長きま

定しん今いあつ子あけりあ

市紙 十のりし白を

しんそめやま(う)うみ(い)しんそ
まにけあ(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)
ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)
ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

神

ゆ(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)
月地(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

夏田

ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

泉

ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)
ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

泉

ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)
ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)ま(い)

彦根人小倉公権の七十の歌

子

快書大綱

○
あつたがう務しとよる哉と今より
あつたがう暇かやん

暮年祝

○
年とよきそりゆきあはれあはれ
あつたがう暇かやん

○
あつたがう暇かやん
秀村人徳成崇者の
百回忌

○
あつたがう暇かやん
あつたがう暇かやん

夏草哀情

○
あつたがう暇かやん
あつたがう暇かやん

毎邊納涼

○
あつたがう暇かやん
あつたがう暇かやん

蜀中山

○
あつたがう暇かやん
あつたがう暇かやん

片倉玄備の古園の扁額

片倉玄備

のまのふしよさく

世ははらふまを待つてわらわ

もやるふかもの園

伊豆松身とみよののり

つよもの松まのうらな

まのうらな

山のたこふしよさく

つよもの松まのうらな

秋露

藤袴さくたのそるま

言の葉

あまのふしよさく

やまのふしよさく

まのうらな

とこ

まのうらな

あまのふしよさく

思の兩人五

昔はくまのこころにまはるる
精進の糸をまきしに
あまねくこれいかに
あまねく

七夕の雲

星あまのこころにまはるる
今世の中おらふに

後世のこころにまはるる

このこころにまはるる

梅のこころ

あまねく梅のこころに
あまねく梅のこころに

忘心丹

あまねく梅のこころに
あまねく梅のこころに

三松の歌

あまねく梅のこころに

しんせんせきや 夜のまをる

秋夕五

あきふゆのまをる 秋の夕をる
ほろろの神のまをる ぬるうら

露

まがわくく ぶさう 夜のまをる
まがわくく 秋のまをる

夜月

まのまをる 秋のまをる ぬるうら

まのまをる 秋のまをる

夜月

あきふゆのまをる 秋のまをる
まのまをる 秋のまをる

あきふゆのまをる 秋のまをる
まのまをる 秋のまをる

夜月

あきふゆのまをる 秋のまをる

々々々々々々々々々々々々々々々々

御二方

あはれとけしきつる女御御座り
白玉ちるやそめのさのさ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

御座り

あまのこあまのこあまのこ

あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

あまのこあまのこあまのこ
あまのこあまのこあまのこ

あまのこ

日いもの松林のまゝ

初瀬川柳

いさりの今さらなる川柳

明の肩に紅い花のついで

秋の東の風は三浦の

とつて 胡弓の音を聴く

人地いこそいおのる

三浦

あつたはらぬのまゝ

いかに女のまゝ

子日

ういこの時一のまゝ

あつたはらぬのまゝ

いかに

あつたはらぬのまゝ

いかに

照不絶色

あつたはらぬのまゝ

初瀬川柳

あはれなる女はあはれなる

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女

あはれなる女はあはれなる女
あはれなる女はあはれなる女

あはれなる女
あはれなる女
あはれなる女

あはれなる女

あはれなる女

とておのの御あはのし

水月

あはれなる一ふりてはな一はな
さくぬる桶の水の月影

神子水枝

あはれなる一ふりてはな一はな
さくぬる桶の水の月影

為

あはれなる一ふりてはな一はな

あはれなる一ふりてはな一はな

為

あはれなる一ふりてはな一はな

為

あはれなる一ふりてはな一はな

思不言

あはれなる一ふりてはな一はな

前記にそめらるる

月帯言志

後山藩の家免様
但馬直治の二回忌

くわあやの比とほやしんてん

あふ字今あらぬは

まうけとよしとていふ

三のの輝のふあつた

葵

あふひをいんえや
のうけのふあつた

紅葉

あふひをいんえや

あふひをいんえや

秋世を

あふひをいんえや

あふひをいんえや

秋世

はま方もも 序もいふそまもめ
ふた 咲くもも 包の 胡弓

松下 松子

あはれも きの 松子 松子 松子

さうらゐの 松子 松子

松子 松子

松子 松子 松子 松子

さうらゐの 松子 松子

松子 松子 松子 松子

松子

松子 松子 松子 松子

松子 松子 松子 松子

松子

松子 松子 松子 松子

松子 松子 松子 松子

松子

松子 松子 松子 松子

松子 松子 松子 松子

身もまろく日をもあはれ

かろきそ人日のあはれもあはれ

らういあはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

空

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

空鳥

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

あはれあはれもあはれ

しんげい

木をわらわい先うゑるはちあしれ
あつたはれのあつたを
きこつたの何あつたんね
あつたあつたのあつたを

遠く

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

水

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

綱代

あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた

雲者うらみと伊弉諾の御子の
指さるることなき

おとこなき

きよなるおのけの御子の御子の
ちよしんじゆふはのせ

片ねうらみと伊弉諾の御子の
やまのぬる御子の

あまの

白のぬるもあまの御子の

鳥のぬるもあまの御子の

歳の日なき

うれあまの今日考へる御子の
あまの御子の御子の

あまの御子の

草の葉のたると今別考へる

あまの御子の御子の御子の

天象

三の光の御子の御子の御子の

春の千花のまをさる

ハナカキ

花のまをさる

花のまをさる

古宅

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

花のまをさる

陸奥

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

夏

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

秋

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

冬

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

正月

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

あつちのうらやうとていふは
今もあつちのうらやうとていふ

小正月

おえりし ねまの字は柳原
けあのおまゝしんか

平家の子孫は
おまゝしんか

おまゝしんか

古中書 巻の十七回忌

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

おまゝしんか

あつらひの世のまゝにまゝに
物のからまゝにまゝに

三つにまゝにまゝに
身まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝに

まゝにまゝにまゝに

まゝにまゝに

和歌

高き山に雲をたもてて
まの山に雲をたもてて

和歌

あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

和歌

あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

和歌
あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

和歌

あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

和歌

あはれ山に雲をたもてて
あはれ山に雲をたもてて

和歌

三つ
二つ
一つ
...

...

...

松倉の景色

...

...

...

霞の中

...

...

...

海子

...

...

...

...

...

...

聖徳太子

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記 卷之六

神皇正統記

神皇正統記

神皇正統記

歌
三
六

人
は
な
ら
ず

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

性

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

鑑

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

鳥

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

性

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

性

あ
ら
ま
の
ま
は
ら
の
ま
は
ら

あ
ら
ま
の
ま
は
ら

御書

あつらひ

中々よきものなるあつらひをさしよかぬといふ
あつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ
あつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ
あつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ
あつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ
あつらひ

あつらひ

あつらひのあつらひのあつらひ
あつらひ

かまゆ
とらや
くろく
くろく

つるあさひのうらなはあはれ
あつとくあつとくあつとく

遠山新樹

くろくあつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

葵

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく
あつとくあつとくあつとく

あつとくあつとくあつとく

材

まの...
...
...
...

...
...
...
...

...
...
...
...

不見之玉

...
...
...
...

三十一

...
...
...
...

三ノ一 三ノ二 三ノ三 三ノ四 三ノ五
三ノ六 三ノ七 三ノ八 三ノ九 三ノ十
三ノ十一 三ノ十二 三ノ十三 三ノ十四 三ノ十五
三ノ十六 三ノ十七 三ノ十八 三ノ十九 三ノ二十
三ノ二十一 三ノ二十二 三ノ二十三 三ノ二十四 三ノ二十五
三ノ二十六 三ノ二十七 三ノ二十八 三ノ二十九 三ノ三十
三ノ三十一 三ノ三十二 三ノ三十三 三ノ三十四 三ノ三十五
三ノ三十六 三ノ三十七 三ノ三十八 三ノ三十九 三ノ四十
三ノ四十一 三ノ四十二 三ノ四十三 三ノ四十四 三ノ四十五
三ノ四十六 三ノ四十七 三ノ四十八 三ノ四十九 三ノ五十

三ノ一 三ノ二 三ノ三 三ノ四 三ノ五
三ノ六 三ノ七 三ノ八 三ノ九 三ノ十
三ノ十一 三ノ十二 三ノ十三 三ノ十四 三ノ十五
三ノ十六 三ノ十七 三ノ十八 三ノ十九 三ノ二十
三ノ二十一 三ノ二十二 三ノ二十三 三ノ二十四 三ノ二十五
三ノ二十六 三ノ二十七 三ノ二十八 三ノ二十九 三ノ三十
三ノ三十一 三ノ三十二 三ノ三十三 三ノ三十四 三ノ三十五
三ノ三十六 三ノ三十七 三ノ三十八 三ノ三十九 三ノ四十
三ノ四十一 三ノ四十二 三ノ四十三 三ノ四十四 三ノ四十五
三ノ四十六 三ノ四十七 三ノ四十八 三ノ四十九 三ノ五十

三ノ一

夕暮

夕暮の涼も汁の
おそめさるる所
ちかきし原の
つらさるる
ふらばちかき
のほ

泉

ありし泉が
こころの
わりの
あ

ふみかき
のほ
のほ

あ
あ
あ

なま

なま
あ
あ

あ
あ
あ

漢舟何き

いづり舟りりるいんかあひる

あひ神かりんけいん年あひ

瀆早秋 百 舟元雄

考せまおめとんいつりあひる

まうりけいんれきまうりき

後それいんまうりれきまうり

せのいんれきまうりれき

渡り

舟りまうりあひるいんかあひ

この河あひるいんかあひ

掛川の地まうりあひる

取の地まうりあひる

あひるまうりあひる

あひるまうりあひるいんかあひ

あひるまうりあひる

舟りあひる

あひるまうりあひるいんかあひ

金路をぬきま

在野はま

うーつふきやつあんまの屋
あまのあまをよおと

月夜は秋

河原秋

後下あまのあまおに

あまの川のうらな秋風

終想はま

あまのあまのあまを
あまのあまのあまを

あま秋

あまのあまのあまを
あまのあまのあまを
あまのあまのあまを
あまのあまのあまを

御書

あつらふもむしりまゐるはう元
つるはす袖をきく月が

三折句

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

日之末

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

ひんぎ

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

ひんぎ

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

あつらふもむしりまゐるはう元

ひんぎ

あつらふもむしりまゐるはう元

御書

あつた
あつた
あつた
あつた
あつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

木葉標
あまのつた
のちのち
のちのち
のちのち
のちのち

あまのつたのちのち

標
あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつたのちのち

あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつたのちのち

あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつたのちのち

あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつたのちのち

あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつたのちのち

あまのつた

あまのつたのちのち

あまのつた

御
筆
本
巻

井口かいらのおまじり
おまじり
おまじり
おまじり

人まじり様の人ごころ
おまじり
おまじり

おまじり又おまじり
おまじり
おまじり

おまじりおまじり
おまじり
おまじり

山中日記

おまじりおまじり
おまじり
おまじり

おまじりおまじり
おまじり
おまじり

おまじりおまじり
おまじり
おまじり

おまじりおまじり
おまじり
おまじり

おまじり

つひちい二時子念ふ平伝
大守部こ海に陸海都を
ぬは流で流あふて世よ
はらつこのいふもいせはひ
かたしうしはのうらあふ
かたしうしはのうらあふ
かたしうしはのうらあふ
かたしうしはのうらあふ

陰
陰
陰
陰

かたしうしはのうらあふ



